

Y03a 現代型防災啓発および時代比較対象としての大規模目撃事例の観察：2023年12月および2024年5月の事例より

玉澤春史（東京大学）

日本各地で同時に見られる天文現象は、様々な人々が目撃記録を残すことにより、その時点での現象の理解や社会情勢などを理解することができる機会となる。これは過去も現代もその構造は変わらず、大規模目撃事例による時代比較といったことも可能である。2023年12月および2024年5月における磁気嵐においては、事前に日本でもオーロラが見られる可能性が指摘され、実際に写真撮影、2024年の場合は肉眼での目撃が報告された。一部地域では過去の目撃例を広報として利用するなどの例も見られた。一方で不正確な情報の無意識的および意図的流布もみられ、拡散速度が過去とは比較にならないほど早い現代では事前対応、初期対応含め今後の課題である。稀な現象を記録し社会的に共有し、過去の目撃例と比較する例は過去にも繰り返され、そのたびにあらたな史料の掘り起こしがなされている。このような例は災害における史料利用でも同様に起こっていると考えられるが、現代型の災害にも関係するうえで、社会的な防災意識への寄与という点でも今後も動向を注意すべき案件である。